

第1学年体育科 「高く、遠く、リズムよく わくわくコースを楽しもう ～ 跳の運動遊び～」

学習指導者 安岐 美佐子 ・ 支援員 内田 珠世

単元の概要・子供と共有した目標 自らの目標に向かう姿

跳ぶ高さや幅、リズムなどを楽しむことができる場で遊んだ子供たちは、高さや幅、リズムを変えたり、跳び方や物の置き方などの遊び方を変えたりしながら、より楽しく遊ぼうとしていった。そして、自分たちが作った楽しいコースを組み合わせた「1年東組のパワーアップわくわく広場を作って遊ぼう」という単元のゴールを設定し、遊んだり、工夫したりしていった。

見通し 問題を発見して、課題を設定する姿

まず、前時の楽しかったコースやその時の工夫を図や写真で想起させた。次に、子供たちと作った単元計画を基に単元のゴールを確認し、より楽しいコースで遊ぶために、いろいろなコースで遊んだり工夫したりすることの必要感を表出させ、課題を確認した。

前時の楽しかったコースに貼った名前磁石を基に、自分が選んだコースの楽しさや工夫したことを想起し、本時いろいろなコースで遊んだり工夫したりしようと思いを高めた。



いろいろなコースで遊んだり、工夫したりして、もっと楽しいコースで遊ぼう

行動 諦めずに試行錯誤する姿

コースの前半は、前時までの楽しいコースで、後半は、自由に物の並べ方（高さや幅、組み合わせなど）を変えることができるようにした。また、コースごとの楽しさや、楽しい遊び方にする視点を補助黒板に提示し、楽しく遊ぶ際の手掛かりとなるようにした。活動に入る際、「一時間ずっと頑張るためには何から取り組んだらよかったかな」と問いかけ、「楽しそうなコースや遊び方から変えて取り組む」という方法の想起を促した。途中、同じコースで遊ぶ子供たちを集めて遊び方やそのコースの楽しさを再度共有したり、集まった時に活動中の様子を写真で見せたりすることで、後半の活動に生かすことができるようにした。

楽しそうな場を選ぶ際には、友達の動きや前時までの経験を基に高く跳ぶ、遠くに跳ぶ、複数のリズムを感じられるなどのコースの中で楽しそうな所から選んで遊んだ。楽しそうな遊び方に変える際には、段ボールを重ねる数やマットを並べる幅を変えたり、手を繋いだり競争したりすることを楽しんだ。挑戦するたびに遊んだコースの色のシールを胸に貼っていくことで、数や色を見返して粘り強く取り組んだことに気付いた。



もっと高く跳びたいな。



段ボールを二段にしてみようよ。

振り返り 自らの学びを正確に捉える姿・今後の学習や生活に生かそうとする姿

見つけた楽しいコースを言葉や動きで伝え合う時間を設けた。その際、思いを伝えやすい友達からでよいこととした。その後全体で、集めたシールを基に、楽しそうな場や工夫から取り組んだことで粘り強く活動し、楽しいコースが見つかったことを価値付けた。

友達に楽しかったコースを実際に試してもらうことで、コースの楽しさを伝えることができた。次の時間は、楽しいコースを合体させてパワーアップさせたいと思いを高めた。



ここで、連続でリズムよくけんけんぱができて楽しいよ。やってみて。

考察 (○：成果、▲：課題)

- 友達の動きを見て自分の動きに生かそうと試したり、いろいろなコースで遊んだり、コースで遊び方を変えたりしながら、たくさんのシールを集めて粘り強く取り組む姿が見られた。
- ▲ 工夫や動きにつなげられるよう、コースの特徴（高さ、遠さ、リズムなど）をさらに明確にする。

